

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.54
2014.5



エネルギー充電中!

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

“ヒガシニホントカゲ”の日向ぼっこ

モノトーンの森を黄緑色のグラデーションが鮮やかに染め始めたある日、ビジターセンター前の石垣で静かに日差しを浴びているトカゲに出会いました。まず出会ったのはメタルブルーの尾が目立つ縞模様の幼体。こちらの姿に驚き石垣のすき間に隠れるものの、しばらくすると警戒しながら再登場。こちらがジッとしていると警戒心も少しとけたようで、アップの写真を撮らせてくれました。しばらくしてから石垣を探してみると、枯葉に覆われた地面からカサカサと音が…。今度は地味な黄土色の成体が素早く石垣を音もなくスルスル移動し、陰に隠れてしまいました。少し待つと顔を出して、さっきの幼体と同じポーズをしてくれました。だいたい決まって石垣で会いますが、これは太陽光で温まった石の熱を利用して体温を維持しているためです。のんびり日光浴をしているように見えますが生きるための大切な時間なのです。

What is
“Higasinihontokage” ?

『旧ニホントカゲ』

トカゲ科
全長：約 150～270mm
分布：北海道～東日本

従来外見が似ていて「ニホントカゲ」とされていたが、近年、西日本に分布するニホントカゲ、伊豆半島・諸島に分布するオカダトカゲ、東日本に分布するヒガシニホントカゲの3種に分類された。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

古典級の山の本公開

昭和初期の技術書も展示

展示コーナー紹介 その⑥

ニュースレターNo.51でご紹介したモモンガ文庫は、おかげさまで利用が増えてきています。今回ご紹介するのは、登山がまだ一般的ではなかった頃の山に関する蔵書です。

中でも昭和10年に発行された「山岳講座」は、戦前の登山ブームの火付け役ともなった全7刊の技術書で、シュタイクアイゼンの使い方一つ取っても単なる



展示キャビネットは入口入ってすぐ右です



昭和10年発行（上）と29年発行（下）の山岳講座

装着の仕方や歩き方だけではなく、アイゼンを使うに当たっての心構えや心得といったものを、とうとうと説いています。便利になりすぎて、道具を安易に扱いがちな今の私たちに、先人達が警鐘を鳴らしているようにも読み取れます。

この他にも、婦人と冬季登山(黒田初子)、山の文学(深田久彌)などの執筆がビッシリと連なっており、どの刊をめくっても、懐かしさと目から鱗の数々です。手に取ってご覧いただけますのでお越しください。

おしえて

網張の森の、セルフガイド
ってなんですか？

ガイドなしでも森の 観察会ができます

網張の森セルフガイドは、皆さんが自由に森の中を散策したい時に持ち歩きができるパンフレットです。

網張散策路入り口と、ビジターセンターに用意しています。見開きには散策路の地図が描かれ背表紙を重ねると各ポイントごとの森の解説を読むことができます。

去年までも白黒印刷のものがありましたが、ビジターセンター設立10周年に合わせ、内容も



散策路薬師社側入口

新しくしました。背面には犬倉山のハイキングコースや季節の花々の紹介もあり、網張の森周辺を散策する時に便利に使うことができます。ご自由にお取りください。



セルフガイドはあなた自身がガイド
新鮮な想像がどんどん膨らみます



佐和子先生の森と友達

松木 佐和子

宮古市（旧川井村）と岩泉町の境界に、知る人ぞ知る青松葉山という山がある。山頂からは南側に鎮座する早池峰山を一望できる名山である。夏道も整備されているそうだが、ササが濃いためほとんどの登山者は冬期間閉鎖される県道が開通する4月中旬から雪が完全に解ける5月初旬までの間に山頂を目指す。

「青松葉」の名前の由来は、1366mの山頂に着いて初めて知ることができる。山頂部にオオシラビソ（アオモリトドマツ）が分布しているので、その名前がついたのだろう。麓から山頂を見上げると、尾根部にだけアオモリトドマツが生えている。ブナやカシなどの落葉広葉樹の葉がない冬期は、まるで常緑針葉樹のトドマツがモヒカンのように見えるのだ。冬期に八幡平などで見られるいくつもの樹氷の主の多くはこのアオモリトドマツだが、ここ青松葉山のアオモリトドマツの個体群は山頂の限られた場所に追いやられている。

今年、この山に登頂したのは5月5日、こどもの日。ギリギリ雪が覆う状態で、まさに往きはよいよい帰りはこわい。早朝に出発したので、往路は硬くしまった雪上を比較的快調に登って進むことができたが、復路は雪も緩み始めて、往きにはなかったササの垣根が所々に出現し、帰路を閉ざそうとしていた。チシマザサの稈の中をもがいていると、方向感覚が無くなるので注意しなければならない。さすがに登山適期がたった数週間という人の気配が少ない山というだけあって、



動物たちの気配があちらこちらに。ブナの幹には必ずと言っていいほどツキノワグマの爪痕が残っているし、雪上にはノウサギやキツネ、テンなどの足跡が縦横無尽に走っている。獣達に直接会うことはできなかったが、唯一目と目を見て挨拶を交わすことのできたのは、ジャノメ蝶の仲間と思われる鱗翅目の小さな友人。幼虫のまま越冬していたのだろうか？ やっと訪れた春の喜びを、一緒に分かち合えた気がした。



*筆者の佐和子先生は岩手大学農学部で学生たちに森林生態学を教えています。山スキーと歌をこよなく愛する彼女に一年間に渡り森に関するエッセイを綴っていただきます。

おかげさまで今年度、満 10 年目を迎えます

網張ビジターセンター開設ものがたり

第一話 ・ ・ ビジターセンターがなぜ国立公園に ・ ・ 千村 勝哉（元網張ビジターセンター主任解説員）

早いもので網張ビジターセンターも 10 年目を迎えました。10 年目を迎えた折、開館当時について、担当した者として振り返ってみたいということです。少し振り返ってみたいと思います。

振り返るにあたり、ビジターセンターはどういう経緯で設置されたかについて簡単に触れておきたいと思います。今、ビジターセンターは全国の国立公園に 100 箇所余あります（うち環境省整備は約 40 箇所）。国立公園になぜビジターセンターが整備されることになったのでしょうか。これは、アメリカ合衆国で国立公園が誕生したことに関係します。19 世紀後半、新大陸アメリカでも全国的な開発と原生的自然の急速な縮小が進み、危機感がもたれていました。1870 年、イエローストーン地域に初めて足を踏み入れたある探検隊が、壮大な間欠泉や深い原始林、雄大極まる渓谷など、あまりにも素晴らしい大自然風景に感動し、ここは自分たちの利益追求のためでなく、国民みんなで楽しみながら保存できる公園にしようではないかという発案をしました。これがきっかけとなって2年後にイエローストーン地域が世界最初の国立公園として誕生しました。こうした動きは日本にも伝播し、導入され、昭和9(1934)年には阿寒、日光等の8箇所が国内初の国立公園として指定されました。時は世界大恐慌の深刻な不況時代、その指定は大自然風景の保護のほか、外人誘致による観光収入（外貨獲得）をはかる切り札でもあったといわれます。国立公園は保護と利用の両面を図るものとして位置づけられたわけです。

アメリカでは国立公園は自慢の代表選手とされ、国家と国民のプライドの源泉であると認識されているようです。その国立公園では自然解説や利用者の適切な指導がひととき重要な業務とされ、活動基盤となるビジターセンターが配置されてきました。この現地での案内と解説という考え方や業務の重要性が我が国にもたらされたのは昭和 30(1955)年のことです。昭和 38(1963)年、日光国立公園の湯元地区に栃木県がビジターセンターを建設し、これに隣接して、当時、国立公園行政を担当していた厚生省国立公園部がレクチャーホールを建てたのがわが国初のビジターセンターといわれます。ビジターセンターの建設が本格化するのは昭和 40 年代に入ってからで、急速な国土開発や自然環境悪化が進む一方、自然環境への関心が高まり、国立公園の教育的価値の利活用が叫ばれ出してきたところです。国立公園は優れた自然の保護、保全と適切な利用推進が使命とされていますが、ビジターセンターは、その普及面やモデル的な利用推進の取り組みでは網羅的に最前線で具現化しているほとんど唯一の存在といえます。日常的に公園利用者（ビジター）と対面して英気の養いや優れた自然に触れる幸せを提供している中核施設（機能）です。

ビジターセンターの社会的価値の際立ちがここに見いだされるわけです。こうしてみますとアメリカの国立公園のビジターセンターが極めて多大な予算を費やして、レンジャーなど豊富な正規職員を配置し、はるかに高い次元で至れり尽くせりのビジターサービスを提供している事情が分かります。 *筆者の千村氏は 2004 年から 2011 年まで主任解説員として網張ビジターセンターの立ち上げから本格稼働に御尽力された。現在、埼玉県熊谷市在住。



ようこそ 網張へ ビジターさんにインタビュー

五月の巻

・・網張ビジターセンターの屋外テラスに出ると目の前にオオヤマザクラが太い枝を四方に伸ばしています。旧網張温泉時代からあったと言われる古木の樹齢は 100 年を優に超えているのでしょうか？ 毎年この木に会うのを楽しみにはるばる東京から訪ねてくる一人の女性がおられます。杉並区高円寺の西 恒子さん。東京生まれで戦中、戦後の厳しい時代を金ヶ崎町に疎開して、女学校時代を過ごしました。「網張に来るようになって五年目、今年やっと満開のオオヤマザクラを見ることができました」「淡紅色の花と赤紫色の葉が同時に開くのを目の当たりにして感激です」

・・網張に来られたきっかけは？「お湯が良いと評判の網張に姉といつか来ようと話していたけど、その姉が亡くなり、結局一人で網張に来ることになってしまいました」「たまたまビジターセンターを訪れたら、なにか居心地が良かったのね」「初めてこの地を訪れる人にとって岩手山や周りの自然について説明してくれるので安心でした」

・・網張のどんなところが魅力と感じましたか？「山々が手の届きそうなところであって、自分が山の懷に抱かれていることを実感するの。東京の自宅から富士山や高尾山が見えるけどそれと全く違う感覚です」

・・有名観光地と比べると網張を訪れる人の数は多くはないのですが

・・「人数ばかり多く集めるというのはどうかと思う」「華やかな宣伝をしなくても知る人ぞ知る場所があってもいいじゃないですか。静かな時の経過の中で得るものがあるでしょう」

「また網張に来たいと思ってもらうことが大切なよ」

・・西さんのような常連の来館者さんは私たちスタッフにとっても大変ありがたい存在で、時には厳しいアドバイス、時には励ましの言葉が私たちの活力源です。



*インフォメーションコーナー 詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

「デジカメで撮る初夏の花」犬倉山

6月21日(土) 自然観察会



デジカメ写真撮影術を学ぶ

網張ビジターセンター集合

8:00~14:30

講師: 工藤 宏 氏

定員 10名 参加費 1,500 円

(下りリフト代込み)

一岩手山まるごと体験ネットワーク

「夜の網張の森でヒメボタルを見よう」

7月10日(木)~17日(木)

小岩井農場まきば園と盛岡市子ども科学館との連携行事。森の陸生ボタルに会いに行こう。

網張ビジターセンター集合 19:30~20:30

定員各 20名

参加費: 小学生以上 300 円



網張ビジターセンター開設 10周年

スペシャル企画 7月27日(日)

「三ツ石山の花紀行」

岩手植物会の専門講師やさしくアドバイス。

網張スキーセンター集合 7:00~15:00

講師: 齊藤安正氏、金田宣昭氏

定員 20名

参加費: 大人 1,500 円 小学生 1,000 円

(上りリフト代込み)

● 網張ビジターセンター企画展 ● -中山 大太郎 写真展-

現在展示コーナーにて開催中

5月展 「岩手山の表情Ⅴ」 5/1~5/31

6月展 「山への誘い」 6/1~6/30



「初冬の正装」

普段、見慣れている岩手山も季節や場所、そして時間でこんなに表情が変わるんだと感じていただければと思います。

(出展者 中山氏の挨拶より)

とてもすてきな写真ばかり。雲の競演など私も撮ってみたいです。(写真展を見られた方の感想・・横浜市の女性)



「夕焼け雲」

モモンガのつぶやき

「この雪は本当にとけるのだろうか？」と背文をはるかに超える積雪を見て半信半疑の日々を過ごしていましたが、やはり季節は巡るもの。幻だったかのように雪は消え、芽吹きが一斉に始まりました。雪に覆われる中での「網張の生きものたち」のネタ探しは苦勞しましたが、今回はコウモリやチョウ、野鳥など主役級候補が並ぶ中、トカゲにスポットを当ててみました。(佳)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 3月 1,298人 ◆ 4月 1,248人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 3月 2.9℃ ◆ 4月 3.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

郵便番号 020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/>

E-mail: amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 4月~10月(休館日なし) 9時~17時